

【再送】一部文章に変更がありますので、修正して再送します。

令和3年6月24日

報道機関 各位

【デモンストレーションのご案内】 グループワークに適した完全ハイフレックス(HyFlex) 授業環境運用開始！

学生に多様な授業参加形態を提供できるハイフレックス (HyFlex) 授業が注目を集めています (図 1) (※1)。これは、コロナ禍が収束したとしても、場所と時間に制約が大きい社会人に対するリカレント教育に適した授業形態です。ハイフレックス授業では、講師は、対面の学生とリモートで参加している学生に対して同時に講義を行う必要があります。さらに、学生を複数のグループに分けてグループ討議を行うような授業においては、ひとつのグループに対面の学生とリモートで参加している学生が混在していても、教室内の他グループの会話に影響されることなくグループワークを行う必要があります。

そこで、国立大学法人長崎大学 ICT 基盤センター/情報データ科学部の小林透教授の研究グループは、ICT 基盤センター会議室に、グループワークに適した完全ハイフレックス (HyFlex) 授業環境を構築し、この度社会人 IT リカレント教育 (※2) での運用を開始いたしました。グループ毎に音声ミキサーと大型モニターを設置し、対面の学生に個人専用のヘッドセットを準備することで、講師は、対面の学生とリモートで参加している学生に対して同時に講義を行うことはもちろん、対面の学生とリモートで参加している学生によるグループワークを可能としました。

については、この post CORONA を見据えた最先端の「ハイフレックス授業」のデモンストレーションと実際の社会人向け IT リカレント教育での利用状況の紹介を下記の通り行います。

※1: ハイフレックス (HyFlex) 授業とは、Hybrid-Flexible の略で、対面・同期オンライン・非同期オンラインが提供され、学生が自在に選択することができる授業形態を指します。

※2: 平成 30 年度から毎年実施している長崎県の委託事業で、データサイエンス実践や大規模プロジェクトマネジメントなど 4 講座からなる社会人向けの「IT 先端技術応用講座」を指します。

(IT 先端技術応用講座ホームページ URL) http://www.eng.nagasaki-u.ac.jp/it_recurrent/

記

1. 開催日時：令和3年6月29日(火) 17:15~18:15
2. 開催場所：長崎大学文教キャンパス ICT 基盤センター1F 会議室
3. 説明内容：
 - ・概要説明 説明者：小林透教授 (ICT 基盤センター/情報データ科学部)
 - ・デモンストレーション 説明者：深江一輝 (ICT 基盤センター)
 - ・質疑応答 (上記説明者)
 - ・18:00 より同場所において「IT 先端技術応用講座」の「大規模プロジェクトマネジメント講座」見学
講師：小林透教授 (ICT 基盤センター/情報データ科学部)

【環境構築の経緯】

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面からオンラインで行う授業スタイルが定着してきました。一方で、オンライン授業においては、学生同士のコミュニケーション不足や質問の共有・議論の場の不足により授業の理解が深まらないといった課題が指摘されています。そうした中、この度の社会人向け「IT 先端技術応用講座」においても同様の課題が顕在化したため、ICT 基盤センター会議室に音声ミキサー・ヘッドセット・大型モニターを導入し、テレワークにつきもののハウリングといった音声問題を解決し、グループとしての一体感を高めた完全ハイフレックス授業の実現を可能にしました。

図2は、「IT 先端技術応用講座」において今回運用を開始した「完全ハイフレックス授業」の通常授業の様子です。講師・教室内の学生の声は、マイクを通してオンライン学生へ届き、オンライン学生の声は教室内のスピーカーから届けられ双方向にやり取りが可能です。もちろん、社会人に多い急な業務での授業不参加にも対応できるよう、動画を都合の良い時にオンデマンドで視聴できる環境も用意しています。

図3は、「完全ハイフレックス授業」のグループワーク運用時の様子です。教室内の学生のヘッドセットでは、左から『対面の学生』・右から『オンラインの学生』の声を聞くことができます。またヘッドセットのマイクは指向性がある特殊なもので、発言者以外の声をブロックできるため他グループの声が混入することがありません。グループ毎に設置した大型モニターでお互いの顔を見ながら一つの資料を共有できることで、あたかもその場にいるような臨場感でグループワークができます。

【運用開始について】

ICT 基盤センターの会議室を改装し、令和3年6月より社会人向け「IT 先端技術応用講座」において、「ハイフレックス授業」の運用を開始しています。

【今後の展望】

新たに、オンライン授業専用の教室を用意する場合は、場所の確保や工事費用が必要で運用開始までに時間がかかります。今回は、既存の教室に対して大がかりな工事が不要で安価な市販品により完全ハイフレックス授業環境を構築できることが特徴です。本環境が整うことで、学生同士のコミュニケーションや議論を活発化させることが期待できます。今後は、本環境を社会人向け「IT 先端技術応用講座」において継続運用し、ノウハウを蓄積することで、post CORONA を見据えた新たな授業環境を確立していく予定です。

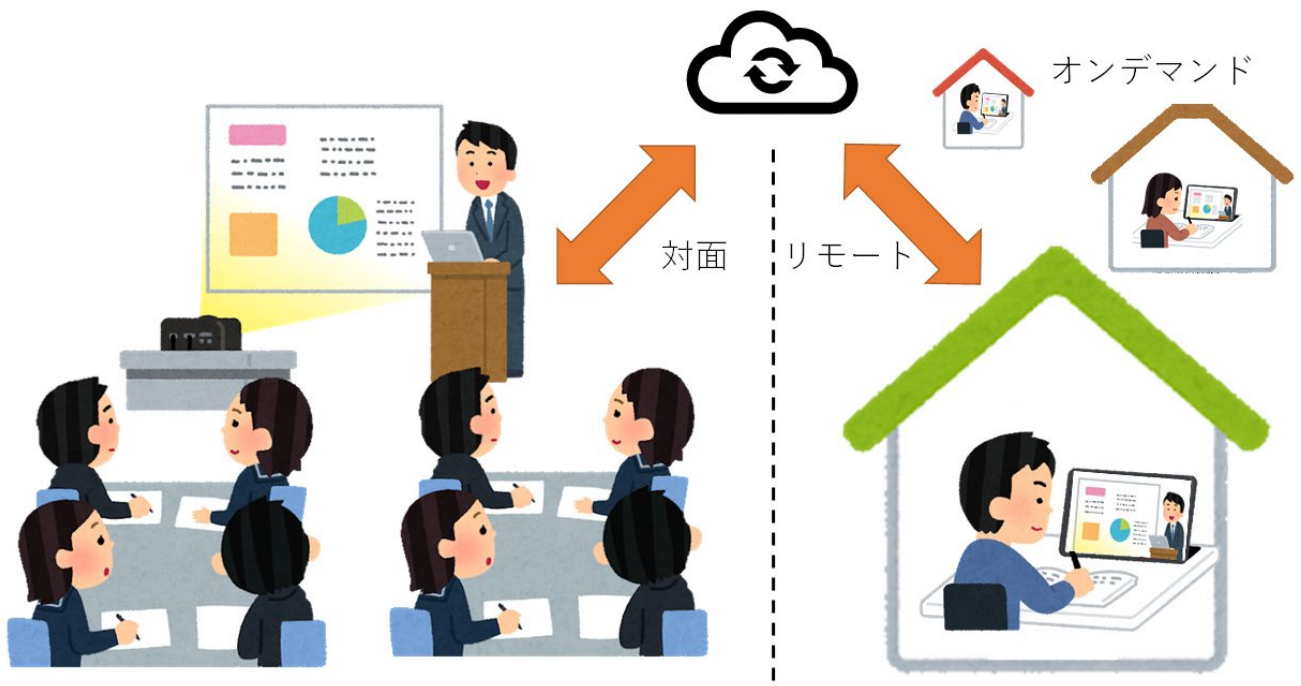


図1 ハイフレックス授業イメージ



図2 「完全ハイフレックス授業」の通常授業の様子



図3 「完全ハイフレックス授業」のグループワーク運用時の様子

※取材を希望する報道機関におかれましては、**令和3年6月29日(火)17時まで**に、以下の取材申し込み先まで、電子メール・電話にてご連絡をお願いします。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、取材の際には、不織布マスクの着用をお願いします。また、当日は、検温、手指消毒の他、緊急の際の連絡先情報の登録をお願いする予定です。

【本リリースに関するお問い合わせ・取材申し込み先】

国立大学法人長崎大学 ICT基盤センター/情報データ科学部 担当：小林・福田

TEL : 095-819-2577 Email : toru-ir_sec@cis.nagasaki-u.ac.jp